

国学研究会・社家文書研究会

研究プロジェクト『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—』の一環として、本年度も国学研究会と社家文書研究会を開催した。

国学研究会

国学研究会では、国学研究会参加メンバーが、普段進めている国学・神道に関する研究の成果や、本研究プロジェクト『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開—明治期の国学・神道関係人物を中心に—』に関連する研究内容を発表した。2015年度は、主にAMC5階プロジェクトルーム2を会場にして、全7回開催されている。それぞれの開催日時と発表者、発表題目は下記の通りである。

- ① 2015年5月7日(木)18:30～20:00
齋藤公太「井上頼国の生涯と事績」
- ② 2015年7月27日(月)18:30～20:00
松永優子「近世における人神祭祀思想の展開」
- ③ 2015年9月25日(金)18:30～20:00
芹口真結子「明治初期における東本願寺の教化活動—明治5年大谷勝尊一行の九州巡回説教を事例に—」
- ④ 2015年12月17日(木)18:30～20:00
武田幸也「今泉定助の思想と皇道発揚運動」
- ⑤ 2016年1月21日(木)18:30～20:00
安藝竜彦「疾病観の宗教史学的研究—近世日本の呪術書を手がかりに—」

⑥ 2016年2月25日(木)18:30～20:00
蔣建偉「会沢正志斎の国学観」

⑦ 2016年3月15日(火)18:30～20:00
齋藤公太「村岡典嗣の神道史研究とキリスト教」

以上のように、近世から近代にかけての時期を対象とした発表がなされ、それぞれの回で参加者による活発な議論が交わされた。①齋藤公太「井上頼国の生涯と事績」は、次に述べる社家文書研究会で着手する井上家宛気吹舎書簡の翻刻に向けて発表されたもので、その成果は書簡の翻刻作業を進めるための前提となった。

また、③芹口真結子「明治初期における東本願寺の教化活動—明治5年大谷勝尊一行の九州巡回説教を事例に—」は、本研究事業の成果の一部を発表したものである。この報告をもとにした論文「明治五年東本願寺の九州巡回説教—教導職制度揺籃期の教化活動—」は、『國學院大学研究開発推進機構紀要』8号(2016年3月刊行)に掲載されている。

このほか、武田幸也「今泉定助の思想と皇道発揚運動」(國學院大學研究開発推進センター編・阪本是丸責任編集『昭和前期の神道と社会』弘文堂、2016年所収)などのように、各報告は、論文掲載や学会報告などのかたちで公表が進められている。今後も、神道・宗教を歴史的な視点を踏まえて研究しようという姿勢を持つ、学内外の研究者に広く参加を呼びかけて、若手研究者の研究の推進をはかっていく。

社家文書研究会

2015年度の社家文書研究会では、井上家宛気吹舎書簡の翻刻を行った。まず、2015年4月29日(水)16:10～17:40に、井上家宛気吹舎書簡の概要を確認し、今後の翻刻作業の進め方について協議した。井上家宛気吹舎書簡は、皇典講究所教授や國學院講師等を歴任した、井上頼因に宛てられた平田鏡胤からの書簡で主に構成されている。この書簡は2007年に井上頼輝氏が國學院大學図書館に寄贈し、校史・学術資産研究センターが調査や整理を行った「井上氏旧蔵資料」に含まれていたものである(武田幸也「資料紹介 井上氏旧蔵資料『古史成文』」(『國學院大學研究開発推進機構 機構ニュース』13号、2013年6月)を参照)。翻刻に際しては、以前撮影されたデータを用いた。撮影データには、史料毎に1つずつ番号が振られており、この番号に基づくかたちで作業を進めた。

具体的な進め方は、書簡毎に担当者を決めて個別に翻刻を進め、その内容を研究会で発表し、誤字などのチェックを参加者全員で行った(なお、鏡胤以外の書簡などは省いている)。研究会の各回の終了後に、翻刻担当者がデータを修正し、その内容を研究会のメーリングリストへアップロードして成果を共有した。書簡の翻刻発表の会は全8回開催された。それぞれの日時と担当者は以下の通りである。

- ① 2015年5月14日(木)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡1(担当:芹口真結子)
- ② 2015年6月2日(火)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡2(担当:齋藤公太)

- ③ 2015年6月26日(金)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡3(担当:小田真裕)
- ④ 2015年7月9日(木)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡5(担当:安藝竜彦)
- ⑤ 2015年10月6日(火)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡6(担当:並木英子)
- ⑥ 2015年11月5日(木)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡7(担当:小林威朗)
- ⑦ 2015年11月24日(火)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡8(担当:松永優子)
- ⑧ 2016年2月9日(火)18:30～20:00
井上家宛気吹舎書簡9(担当:齋藤公太)

書簡の内容は、金銭借用に関するもの(書簡2)や、平田神社関係(略縁起の執筆に関する内容(書簡3)、運営に関する内容(書簡7)など)、『古史成文』(書簡5)・『古史伝』(書簡7)の出版に関するもの、平田家再興に関する内容(書簡7)など、多岐にわたる。年代を特定できるものから推定するに、書簡からは、概ね明治期(明治5年～明治20年代)における平田家の動向を追うことが可能である。このように、本書簡は、本研究事業を遂行する上でも有益な史料群として位置づけることができる。

今後も、引き続き書簡の翻刻を進めることで、参加者の古文書読解能力の向上を図るとともに、当該期における平田家や、平田派の動向について分析を深めていく予定である。
(芹口真結子・齋藤公太)